

1 自治体名	2 関係部署名	
多可町	教育総務課 学校教育課	
1 行政課題の分野	2 支援施策の分類	3 対象とする世代
教育	学び支援施策	中学生(12～15歳)
4 事業者の協力を求める内容	5 困りごとの解決・解消に向けた対応期間	
解決に向けた資金・資材等の提供	中長期的に対応していきたい	
6 解決・解消に要する費用に対する考え方		7 補足資料の有無
社会貢献として無償協力願いたい		あり

1 「困りごと」と事業者に期待する内容(要約)

少子化で部活動維持が困難となり、生徒の多様なニーズに対応できていません。教職員の働き方改革も急務です。企業には、指導者派遣・施設提供・資金支援・送迎支援などを通じて、地域で子どもたちを育てるパートナーとしての参画を期待しています。

2 現状の行政課題

多可町の中学校では、少子化の急速な進展に伴い、学校単位での部活動運営が困難になっています。具体的には、卓球部、バレーボール部、バスケットボール部、陸上競技部などの廃部が相次ぎ、野球部やサッカー部も学校間での合同チームを余儀なくされています。同時に、小学4～6年生287名のアンケートでは、スポーツ・文化合わせて22種目もの活動希望が挙がっており、現在の学校部活動では多様なニーズに対応できていません。さらに、OECD調査では、日本の中学教師の週間仕事時間は56時間で国際的に最長であり、部活動の指導や事務作業による残業が教職志望者の減少にも影響しています。地域スポーツ団体の7割以上が人材確保に課題があると答えており、学校の教師に頼らない指導体制の構築が急務となっています。

3 行政課題に対する施策(事業)展開による対応状況と困っていること(課題)

多可町は、令和5年度から段階的に地域展開を進めています。令和5年度は制度設計期として、検討会議の開催、モデル事業の実施、推進計画の策定を行いました。令和6年度は移行準備期として、「スポ・カルたか」(地域クラブ活動の統括・コーディネート組織)を創設し、コーディネーターを配置。サッカー、バレーボール、軟式野球などの地域クラブが開始され、保護者説明会や体験会も実施されています。

しかし、こうした取組にもかかわらず、地域クラブの実際の運営は、十分に進んでいる状況ではありません。学校主催の説明会やイベント開催により、生徒・保護者に地域クラブの重要性は認知されていますが、実際に自分事として捉えて、参加行動になかなか繋がっていない状況があります。

特に、指導者の質・量確保、財源・物資支援、施設・設備確保、送迎・アクセス支援、指導者研修の充実など、複数の課題が残っています。安全管理・リスクマネジメント研修、応急処置・AED研修、ハラスメント対策研修など、指導者の質を高めるための研修が十分ではなく、会費低廉化のための支援体制も整備途上です。これらの課題は、企業・団体の協力があれば、大きく改善できる領域だと考えます。

4 企業・団体に「困りごと」解決に向けて連携や協力を求める内容

多可町の地域展開は、「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる」という地域共生の精神に基づいています。企業・団体の皆様には、単なる「寄付者」ではなく、地域で子どもたちを育てる「当事者」として参画していただきたいと考えています。

具体的には、以下の協力を求めています。

- (1)指導者・人材の確保・派遣:企業関係者、退職教師、退職スポーツ選手など多様な人材の派遣、公認スポーツ指導者資格取得への支援。
- (2)施設・用具の提供:企業所有の体育館、グラウンド、練習場などの提供、用具・楽器等の寄付。
- (3)資金・基金支援:用具購入費用の支援、企業版ふるさと納税を活用した寄付。
- (4)送迎・移動支援:送迎体制の構築協力、移動手段の提供。
- (5)研修・人材育成への協力:指導者向け研修会の企画・実施、安全管理研修の講師派遣。